

りのため池に多く、平地型の多いオニバス池には生育していないか少ない種である。ホザキノフサモとエビモもオニバス池の方が低かったが、富栄養化の進んだ水域にも生育可能なエビモが(浜島, 1979) 何故少なかったのか疑問である。同じ沈水層のクロモヤマツモが相対的に高い頻度である事を見ると、これらの種は相補的な種であるのかもしれない。あるいはホザキノフサモとエビモが冬期間も生育可能な種である事を考えると、冬期間のため池の水管理の状況と水生植物の生態的特性との関係についても、さらに検討を加える必要がある。

文 献

浜島繁隆, 1979. 池沼植物の生態と観察. ニュー・サイエンス社.
磯部亮一, 1987. 岐阜県海津地方のオニバス群落. 水草研究会会報 30: 6-8.

久米 修, 1985. 香川県におけるオニバスの分布. 水草研究会会報 21: 9-12.

———, 1987. 香川県におけるオニバスの生育状況 1. 水草研究会会報 27: 16-19.

———・納田美也・和気俊郎・大石泰輔, 1987. 新川水系のため池における水生植物相. 香川県自然環境保全指針策定調査研究報告書(新川水系ため池): 16-42.

宮下佳子, 1983. 新潟県佐潟のオニバス. 水草研究会会報 11: 4-6.

宮脇 昭(編), 1981. 日本植生誌 九州. 至文堂.

———, 1982. 日本植生誌 四国. 至文堂.

———, 1983. 日本植生誌 中国. 至文堂.

———, 1984. 日本植生誌 近畿. 至文堂.

———, 1985. 日本植生誌 中部. 至文堂.

大滝末男, 1974. 水草の観察と研究. ニュー・サイエンス社.

山口県柳井市にデンジソウの大群生地

南 敦

『日本のシダ植物図鑑(5)』によれば、山口県でのデンジソウの証拠標本は次の3箇所である。

〔光一1〕下松市豊井(南敦 1979.Y), 〔山口一2〕山口市湯田(小田常太郎 1905.Y), 〔西市一2〕美祢市入見(岡国夫 1964.Y)

これらの内、下松市豊井は現在でも約10㎡の範囲でどうにか生き残っている。他は消滅したようである。

昭和63年(1988年)8月21日、柳井市教育委員会主催動植物同定会(於柳井理科研修所)が開かれ、筆者は講師として出席した。その時、柳井市日積、日積小学校1年森本奈苗さんの標本の中にデンジソウがあった。御同行の母親森本菊代さんにその場所をお教えいただき、同定会終了後現地に行ってみた。「日積上若杉バス停前の湿田」〔岩国一2〕と書いて貰っていたので、そこに行き着くとすぐにガマの生えた湿田(ガマの純群落)に多数のデンジソウを見つめることが出来た。その一帯には休耕田(3年以上経ったものは大低ガマの純群落となっていた)が多いが、そのいくつかとその溝側に多数のデ

ンジソウを見ることが出来た。もっと調査すれば更に広い範囲に分布しているかもしれない。イネの植えてある水田では見ることが出来なかった。デンジソウを調査する時に、多数のコガマ、ウマノズクサ(山口県では稀)、クログワイ、オモダカ、カモノハシなどと少数のアカメヤナギを見ることが出来た。証拠標本は日本シダの会、山口県立山口博物館、宇部短期大学などに納入した。

末筆ながらデンジソウの生育地を御教示いただいた森本菊代さんに厚く御礼申しあげる。

(注)〔 〕は国土地理院発行5万分の1地形図を表わし、1は右上、2は右下、3は左上、4は左下を示す。

○『鳥屋野潟植物調査報告書(植物相、植生、群落)』

(鳥屋野潟植物調査会、昭和63年3月、75頁)

新潟市の鳥屋野潟は、近年、急激にその自然状況を変化させている。この報告書はその現況の調査結果である。ミズワラビやハンゲシヨウなどの稀少種、ホテイアオイやキシヨウブなどの帰化植物、ニフトコヤノブドウなどの「陸化の指標植物」の分布と生態について、やや詳しく報告したあと、植物目録、群落の組成と構造に関する調査結果がつづく。